

6 大和町の食をめぐる現状

視点1 食習慣と健康

重点項目：規則正しい生活リズムを整える

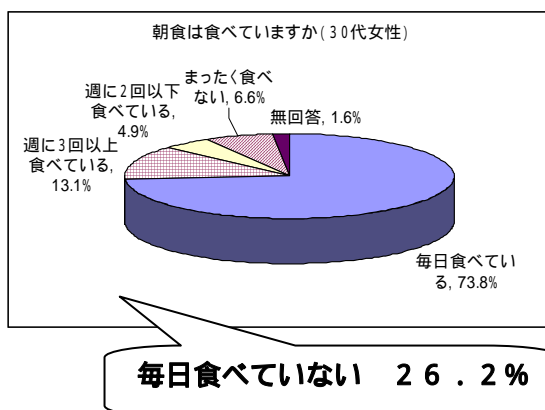
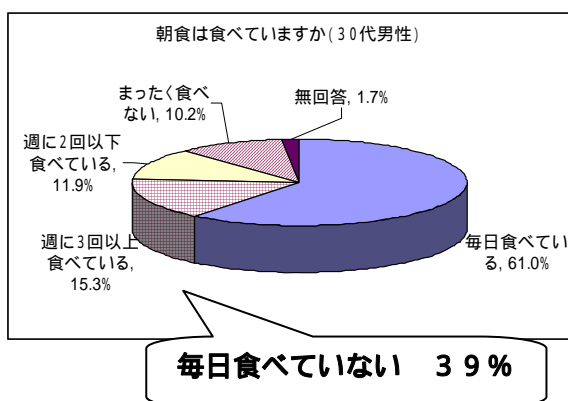


朝食の摂取状況

朝食を毎日食べない人の割合（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

大和町では、朝食を食べていない人の割合は、全国や県と比べて男女とも高い。年代別でみると男女とも30代が最も高く、特に30代、40代の男性は3割の人が朝食を食べていないという状況である。

年齢	国(17年)		大和町(19年度)	
	男	女	男	女
30代	27.0%	15.0%	39.0%	26.2%
40代	16.2%	10.3%	35.9%	23.0%
50代	11.7%	8.3%	12.7%	18.8%
60代	5.6%	5.5%	14.6%	5.4%



朝食をとらない理由

「時間がない」と答えた人が34.7%と最も多い。

年代別で最も多い答えは、30代と50代では「時間がない」、40代では「食欲がない」、60代では「時間がない」「食べる習慣がない」であり、年代で理由が異なっている。

男性で最も多い理由は「時間がない」で35.7%、女性では「時間がない」「食欲がない」で33.3%であり、女性では「食事量を減らす」という理由が男性に比べ多かった。

小中学生の朝食の欠食状況（平成20年度給食アンケート調査結果より）

	国(平成17年度)		町(平成20年度)	
	小学生(5年生)	中学生(2年生)	小学生(5年生)	中学生(2年生)
食べないことがある	14.7%	19.5%	14.7%	12.3%
ほとんど食べない	3.5%	5.2%	1.1%	1.4%

朝食をとらない理由

「時間がない」と答えた人が最も多く、小学5年生で53.3%、中学2年生で72.7%である。次に多い答えが「食べたくなかったから」と答えた人は、小学5年生で46.7%、中学2年生で27.3%となっている。

視点1 食習慣と健康

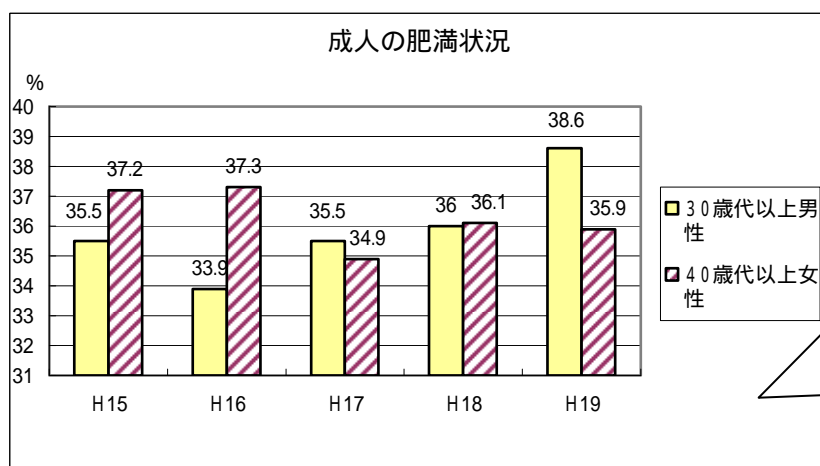
重点項目：肥満を予防し生涯を通じて適正体重の維持

1、肥満の状況

	県の現状値 (H17)	町の現状値 (H19)
30歳代以上 男性	31.0%	38.6%
40歳以上 女性	32.2%	35.9%

成人の肥満状況（基本健康診査の結果より）

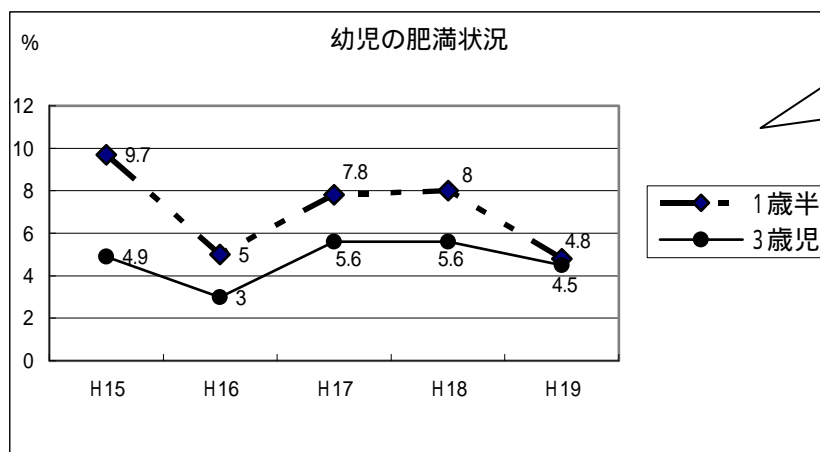
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
30歳以上男性	35.5%	33.9%	35.5%	36.0%	38.6%
40歳以上女性	37.2%	37.3%	34.9%	36.1%	35.9%



県の肥満の状況も3割をこえているが、町の肥満の状況も県より高い割合である。
とくに男性の肥満者が目立ち30代という年代から増加している。

幼児の肥満状況（1歳半健診、3歳児健診より）

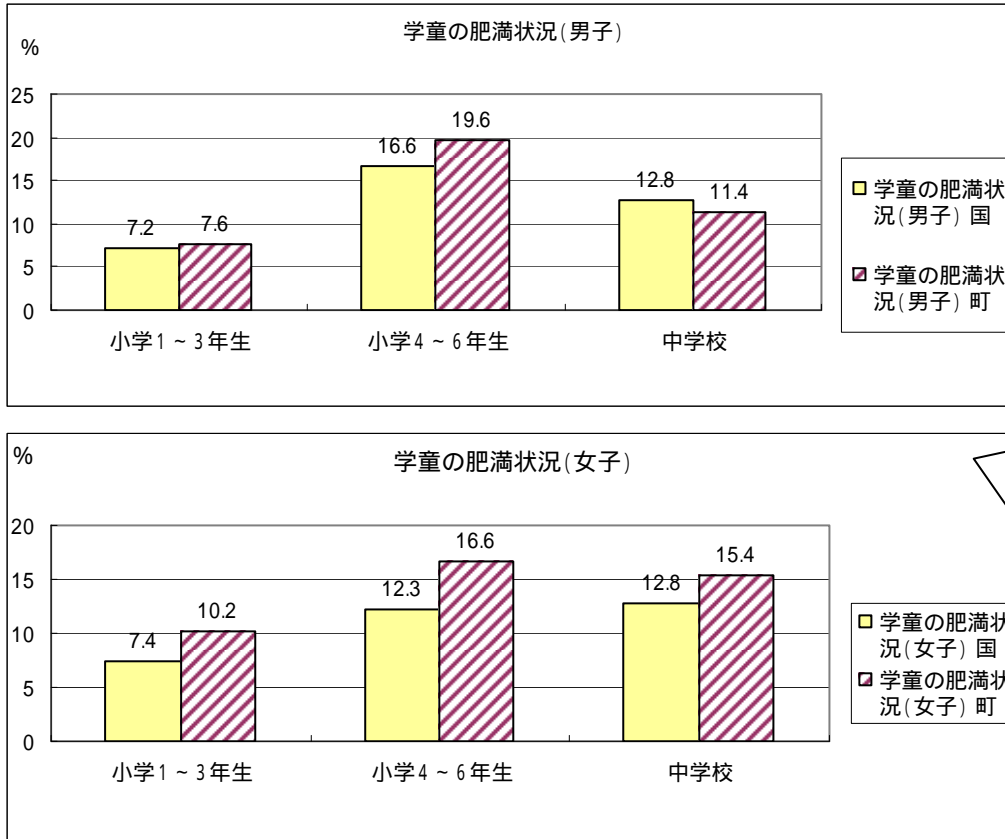
年齢	区分	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
1歳	太りすぎ(20~)	0.4%	4.0%	1.0%	0%	0%
	太りすぎ(18~)	9.3%	1.0%	6.8%	8%	4.8%
3歳	太りすぎ(20~)	1.8%	1.0%	1.7%	1.7%	1.0%
	太りすぎ(18~)	3.1%	2.0%	3.9%	3.9%	3.5%



健診受診者全体における肥満児の割合は減少傾向にある。



学童の肥満状況（小中学校の状況より）



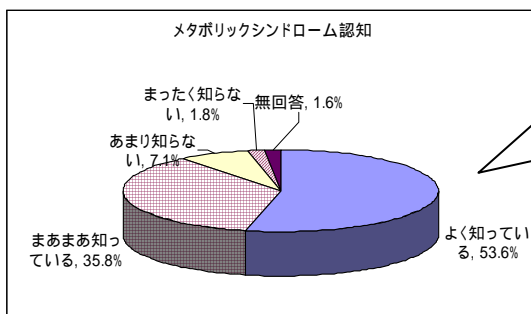
小学生の肥満
該当者は男女とも
全国平均を上
回っている。

中学生の肥満
該当者は女子が
全国平均を上回
っている。

町内の学校はローレル指数か肥満度による報告をしているため、全国の値（H17 国民健康・栄養調査）と比較できる肥満度による報告データを用いて比較している。

2、メタボリックシンドロームを知っている人（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H18）	町の現状値（H19）
49.5%	89.4%（男性85.5%・女性93.1%）



よく・まあまあ知っている人

89.4%（男性85.5%、女性93.1%）

最も多かったのは40代女性で97.3%、50代女性で94.2%、一方最も少ないのは50代男性で79.3%であった。

3、メタボリックシンドローム該当者と食べる速度の関係（平成20年度特定健診結果より）

	男性	女性
メタボリックシンドローム該当者で早食いの方	33.3%	28.2%
メタボリックシンドローム非該当者で早食いの人	23.2%	19.1%

メタボリックシンドローム該当者は食べる速度が速い人に多いという傾向がみられた。

視点1 食習慣と健康

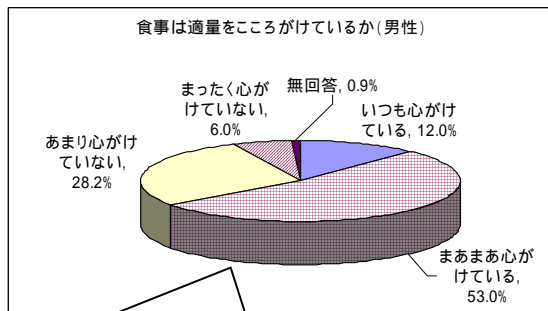
重点項目：ライフステージにおける望ましい食習慣や知識を習得した健康づくり

望ましい食習慣や知識の習得状況

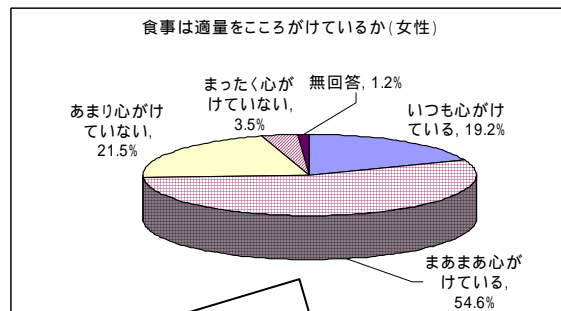
食事の量は適量（腹八分目）をこころがけている人の状況

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
78.9%	69.9%（男性65%・女性73.8%）



いつも・まああまこころがけている
65% 年代が高くなるにつれて心がけている人が多い



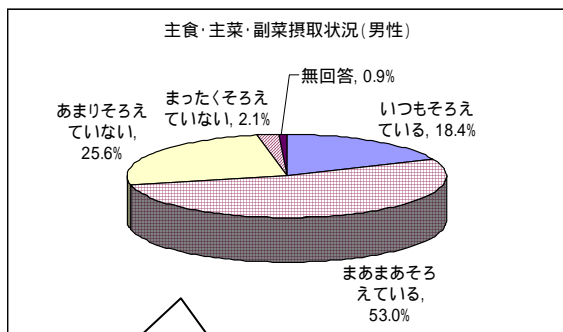
いつも・まああまこころがけている
73.8% 年代が高くなるにつれて心がけている人が多い

年代別にみても、「いつもこころがけている」、「まああまこころがけている」と答えた人が最も多いのは60代女性で83.9%、ついで多いのは50代女性。

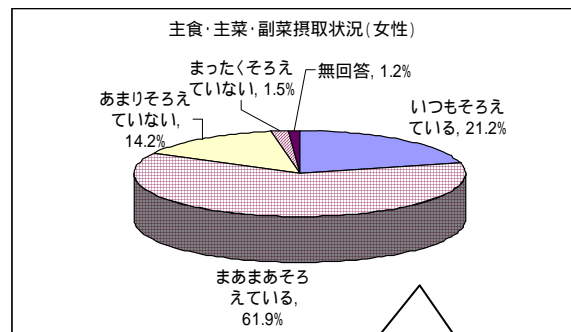
主食・主菜・副菜をそろえて食べるようにしている人の状況

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
62.7%	77.5%（男性71.4%・女性83.1%）



いつも・まああまそろえている
71.4%

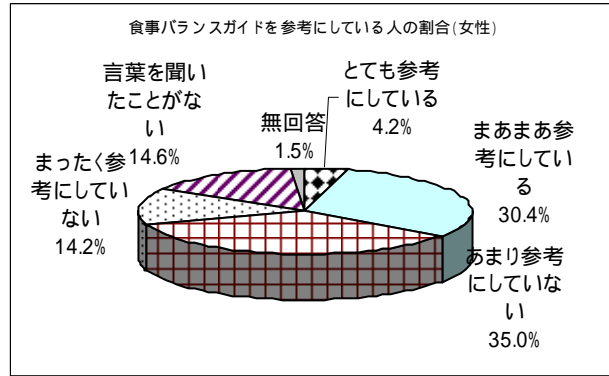
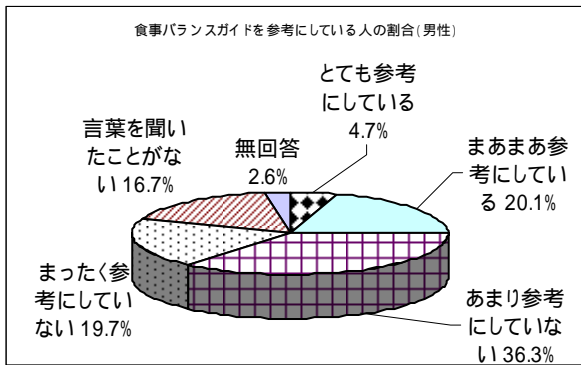


いつも・まああまそろえている
83.1%

食事バランスガイドを参考に食事を作ったり、食べたりしている状況

(平成19年度大和町健康意識調査結果より)

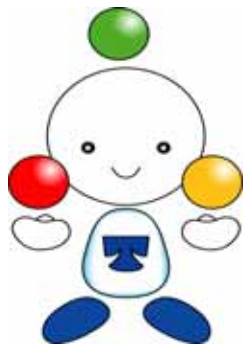
国の現状値 (H17)	町の現状値 (H19)
58.8%	30% (男性24.8%・女性34.6%)



全体でみると、「とても参考にしている」・「まあまあ参考にしている」が30%、「言葉を聞いたことがない」と答えた人が15.6%である。
年代別にみると、参考にしている割合が最も多いのが60代で41.4%、最も少ないのが30代で19.1%と、年代が高くなると参考にしている人の割合が多くなっていった。

とても・まあまあ参考にしている 24.8%

とても・まあまあ参考にしている 34.6%



健康たいわ21プラン
イメージキャラクター

<作品について>
持っている玉は「赤の食べ物」と「緑の食べ物」と「黄色の食べ物」を表し、「食べ物での健康」を意味しています。そして体は「町」顔は「人」を表しています。

視点1 食習慣と健康

重点項目：栄養バランスのすぐれた日本型食生活の実践

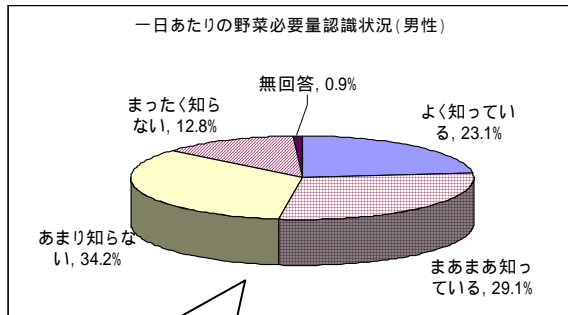


野菜の摂取状況

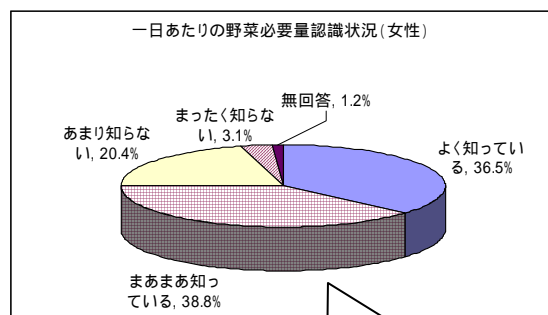
一日当たりの野菜摂取の目安量（350g以上）をよく知っている人の状況

県の現状値（H17）	町の現状値（H19）
42.2%	30.2%（男性23.1%・女性36.5%）

（平成19年度大和町健康意識調査結果より）



**よく・まあまあ知っている
52.2%**



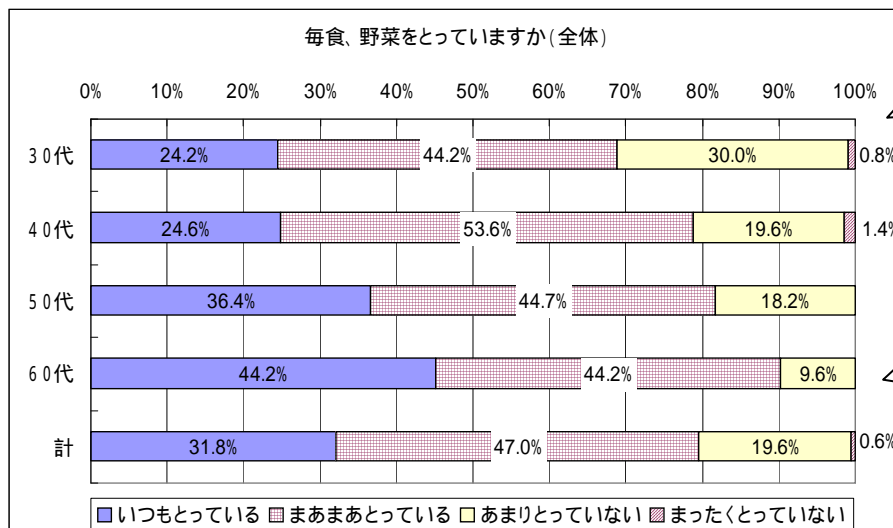
**よく・まあまあ知っている
75.3%**

全体で30.2%の人が「よく知っている」と答え、「よく知っている」・「まあまあ知っている」と答えた人は64.4%である。年代別でみると60代で39.4%、最も少ないのは30代で20.0%である。全年代において女性のほうが男性に比べ知っている割合が多い。

毎食野菜を欠かさない人（平成19年度大和町健康意識調査結果より）

町の現状値（H15）	町の現状値（H19）
33.8%	31.8%（男性29.5%・女性33.8%）

平成15年度と比べて野菜を欠かさない人が減少している。



野菜摂取の低い年代は30代、40代で3割にも達していない。

野菜摂取の高い年代は60代であり、女性は50.0%、男性は37.5%である。

視点1 食習慣と健康

重点項目：口腔衛生の向上



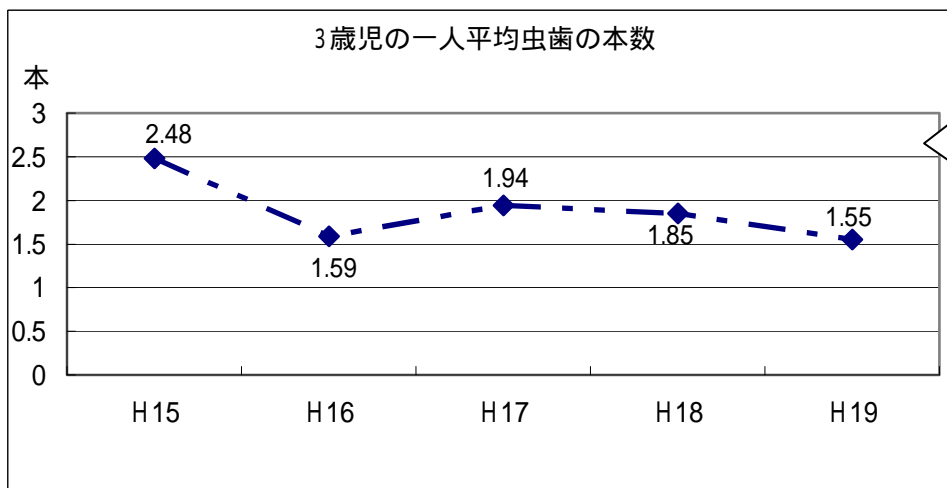
歯科保健の状況

3歳児の一人平均虫歯の本数（3歳児健診結果より）

国の現状値（H18）	県の現状値（H19）	町の現状値（H19）
1.06本	1.63本	1.55本

3歳児の一人平均虫歯の本数（3歳児健診結果より）

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
虫歯（本）	2.48本	1.59本	1.94本	1.85本	1.55本



町年次推移としては一人平均虫歯本数は減少し改善している。

全国平均と比較するとまだ高い状態が続いており、改善が必要。

「8020賞」で表彰される人（累計）

年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
表彰者（累計）	29人	38人	43人	48人	51人

8020賞とは

80歳になっても健康で20本以上の健康な自分の歯を持っていることです。